

## 農 研 速 報

## 大豆の生育概況(龍ヶ崎市、最終版)

地域名	生育(作柄・品質)概況
茨城県 (龍ヶ崎市)	<p>龍ヶ崎市における2023年の気象と大豆の生育経過、成熟期の生育および収量、品質の平年との比較は以下のとおりである。</p> <p>1) 気象(6月第4半旬～10月第6半旬)  <b>日平均気温</b>: 6月はやや高く(平年差+0.9℃)、7月はかなり高く(平年差+2.2℃)、8月～9月はかなり高く(平年差+2.2℃)、10月は平年並であった(平年差-0.1℃、図1)。  <b>降水量</b>: 6月は平年比5.2%とかなり少なく、7月は平年比6.2%とかなり少なく、8月～9月は平年比95%と平年並で、10月は平年比45%とやや少なかった(図2)。  <b>日照時間</b>: 6月は平年比121%とやや長く、7月は172%とかなり長く、8月～9月は平年比135%とかなり長く、10月は平年比153%とかなり長かった(図3)。</p> <p>2) 生育経過  <b>里のほほえみ</b>: 出芽期は6月25日と1日遅く、開花期は7月28日と3日早かった(表1)。播種後36日の地上部の生育は、平年並となった。播種後64日以降の地上部の生育は、分枝数はやや少なく、その他の形質は平年並であった。播種後98日の地上部の生育は、主茎長はやや短く、分枝数はやや少なく、茎はやや細く、生体重はやや重く、一株莢数はやや多く、一株莢重はやや重かった(表2)。  <b>納豆小粒</b>: 出芽期は6月24日と平年並で、開花期は8月4日と3日早かった(表1)。播種後36日の地上部の生育は、分枝数は平年並、その他の形質は平年をやや上回った。播種後64日の地上部の生育は、主茎長はやや長く、主茎節数はやや多く、分枝数はやや少なく、生体重はかなり重かった。播種後98日の地上部の生育は、主茎長はやや長く、主茎節数はやや多く、生体重はやや重く、一株莢数は平年並で、一株莢重はやや重かった。(表2)。</p> <p>3) 成熟期の生育および収量、品質  <b>里のほほえみ</b>の成熟期は3日遅く、納豆小粒の成熟期は2日早かった。品種別の調査項目の平年値との比較は以下のとおり。  <b>里のほほえみ</b>: 成熟期は3日遅かった。倒伏は平年並、青立ちはかなり多かった。地上部の生育は、主茎長はやや短く、主茎節数はやや少なく、分枝数はやや少なく、茎の太さはやや細かった。百粒重は平年並で、稔実莢数は多く、不稔実莢数は平年並であったため、子実重は43.1kg/aと平年より重かった。外観品質は平年よりかなり劣った(表1)。  <b>納豆小粒</b>: 成熟期は2日早かった。倒伏は少なく、青立ちは平年並であった。地上部の生育は、主茎長はやや長く、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並で、茎の太さはやや細かった。百粒重は平年並で、稔実莢数はやや多く、不稔実莢数は少なく、子実重は46.4kg/aと平年より重かった。外観品質は平年よりやや優れた(表1)。</p>

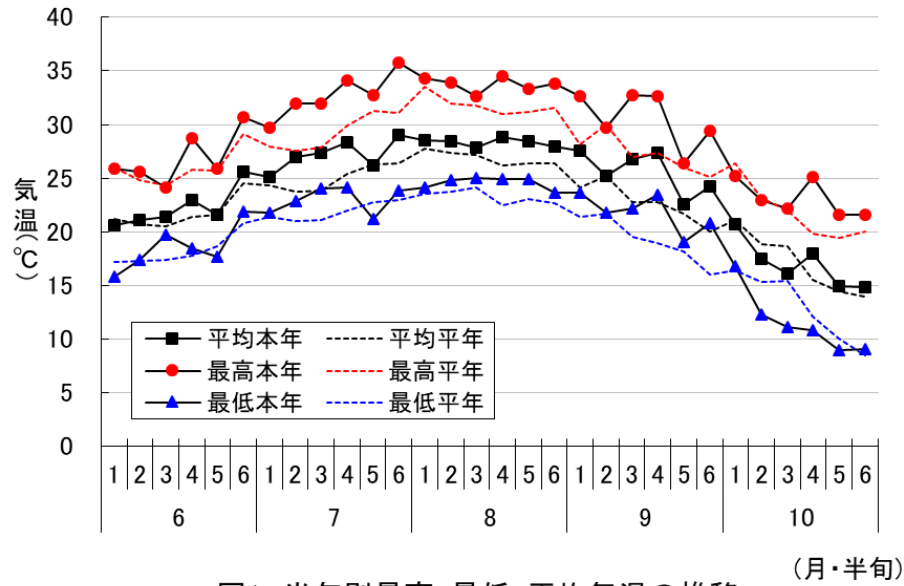


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移

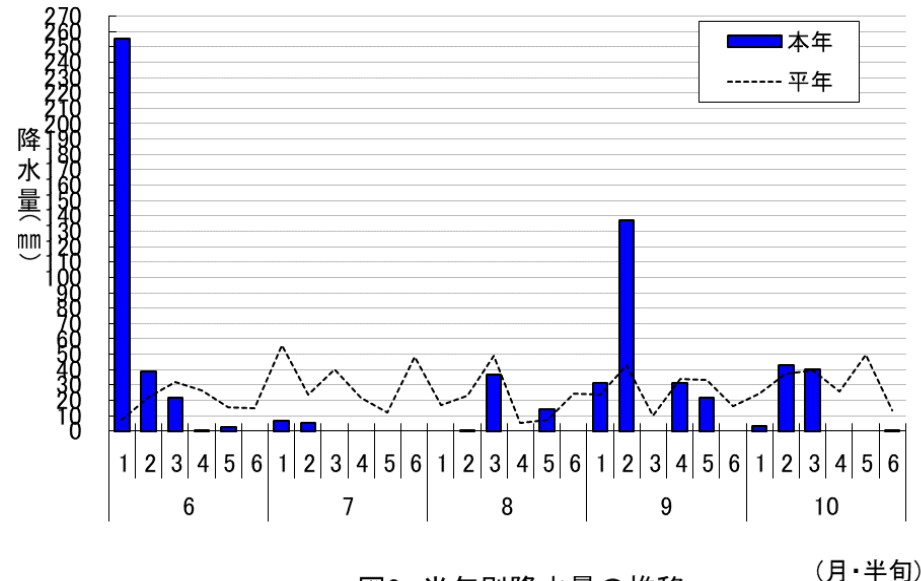


図2 半旬別降水量の推移

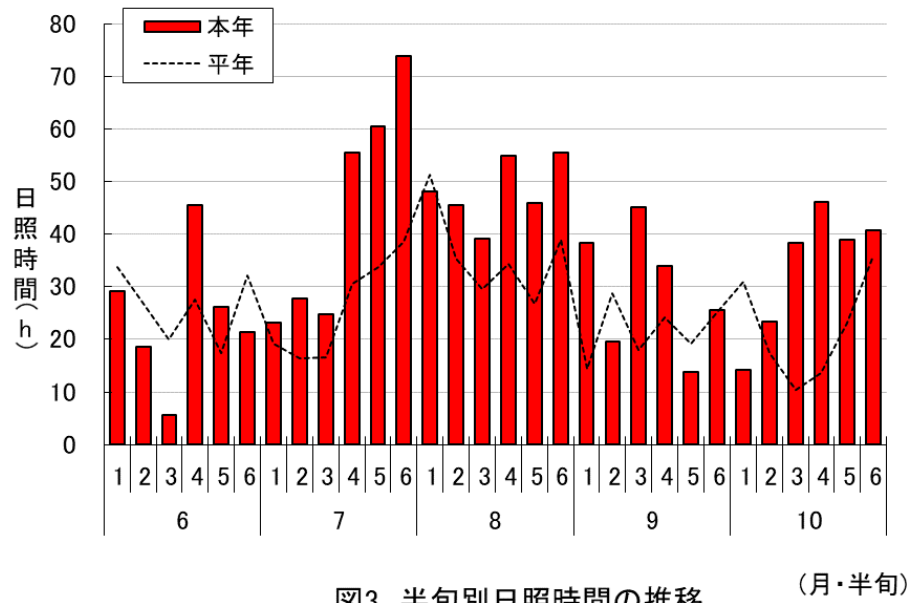


図3 半旬別日照時間の推移

表1 輪換畑における大豆の生育、収量、品質（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

品 種	出芽期		開花期		成熟期		倒伏程度		青立程度		主茎長		主茎節数		分枝数	
	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年	平年差 (0-5)	本年	平年差 (0-5)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (節)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)
里のほほえみ	6.25	1	7.28	-3	10.26	3	1.0	-0.4	4.0	2.6	56	88	14.1	90	3.4	77
納豆小粒	6.24	0	8.04	-3	10.25	-2	2.0	-1.4	1.0	0.2	75	109	17.1	106	9.6	109

品 種	茎の太さ		全重		稔実莢数		不稔莢数		子実重		百粒重		外観品質	
	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	平年比 (%)	本年 (g/100粒)	平年比 (%)	本年 (1-7)	平年
里のほほえみ	11.1	93	81.2	120	64.5	119	11.8	100	43.1	142	37.7	102	7.0	5.4
納豆小粒	9.8	95	91.9	131	202.1	108	16.6	59	46.4	141	10.9	105	5.0	5.2

【注釈】

- 1) 耕種概要と平年値は表1に準ずる
- 2) 茎の太さは、子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 3) 全重は、子葉節で切断した地上部の風乾後の重さ
- 4) 倒伏程度は、主茎傾斜角度により判定し、0（5°以下）、1（6～15°）、2（16～25°）、3（26～45°）、4（46～65°）、5（66°以上）とした
- 5) 青立程度は、0（無）、1（微）、2（少）、3（中）、4（多）、5（甚）とした
- 6) 子実重、百粒重は水分15%換算。子実重は「里のほほえみ」が7.3mm篩上、「納豆小粒」は4.9mm篩上かつ目視で選別した後の重さ
- 7) 外観品質は1（上の上）、2（上の中）、3（上の下）、4（中の上）、5（中の中）、6（中の下）、7（下）とした

表2 輪換畑における大豆の生育経過（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

品 種	調査月日 (播種後日数)	主茎長		主茎節数		分枝数		茎の太さ		地上部生体重		一株莢数		一株莢重	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (節)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (g/株)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (g/株)	平年比 (%)
里のほほえみ	7.26 (36)	39	106	11.0	103	1.1	83	9.0	101	69.3	116	-	-	-	-
	8.23 (64)	56	93	13.7	98	3.6	78	12.5	95	262.2	98	78.2	95	30.3	95
	9.26 (98)	56	91	13.8	97	3.4	75	12.1	93	327.8	109	76.3	105	133.5	120
納豆小粒	7.26 (36)	40	131	12.3	116	1.8	151	7.4	117	66.1	172	-	-	-	-
	8.23 (64)	81	117	17.2	106	7.1	93	10.1	91	311.4	128	142.8	94	6.5	98
	9.26 (98)	81	112	17.5	107	10.0	106	10.8	97	364.5	112	229.6	104	121.0	115

【耕種概要】

- 1) 圃場来歴：転換3年目（前作麦）
- 2) 播種：6月20日播種、11.1株/m<sup>2</sup>（畦間60cm、株間15cm）1本立て
- 3) 基肥：N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.3-1.2-1.2kg/a
- 5) 中耕・培土：7月12日、7月21日（それぞれ子葉節、初生葉節まで実施）

【注釈】

- 1) 茎の太さは子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 2) 地上部生体重は子葉節で切断した地上部の重さ

【平年値】

平成30年～令和4年播種の5カ年の平均値



写真 所内大豆の成熟期頃の生育状況(「里のほほえみ」は2023年10月30日撮影、「納豆小粒」は2023年10月27日撮影)

## 気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。  
 各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。  
 さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

